人と人、地域と地域、
人と地域をつなぐ・・・

FURE サテライト新聞

2017年11月　第16号

福島大学イメージキャラ

発行
福島大学
うつくしまふくしま未来支援センター
相双地域支援サテライト
ホームページ
http://ifs.fure.fukushima-u.ac.jp/

バイオリニスト 千住真理子さん 広野、楢葉、富岡で演奏会開く

世界を舞台に活躍する、日本を代表するバイオリニストの千住真理子さんが9月、広野町、楢葉町、富岡町を訪れ、コンサートを開きました。千住さんの紡ぐ音楽は、子どもから高齢者までを魅了し、美しい音色の贈り物が双葉郡に届けられました。

◇　◇

コンサートは、朝日新聞厚生文化事業団の事業として実施し、当サテライトも協力しました。同事業団の東日本大震災の復興支援の一環として、千住さんは被災地での演奏を続けています。今回はピアニストの丸山滋さんとともに来福、2日間で広野町公民館、富岡町立小中学校仮設校舎、楢葉町立楢葉南小・北小・楢葉中、楢葉町コミュニティセンターと4公演、いわき市で2公演という、精力的な演奏活動を展開しました。

いずれの公演でも、〝寄り添う〟ことを大切にする千住さんが、思いを寄せて選んだ、バッハ「G線上のアリア」や「アメージング・グレース」などの名曲を披露。また、モンティの「チャルダッシュ」では、情熱的なメロディに合わせて激しく、細やかに動く手の動きに、児童・生徒たちの目が釘付けになっていました。

このほか、東日本大震災後、再生への切なる祈りを込めて、日本に伝わる美しいメロディを大切にしたいと演奏を続ける日本歌曲も披露。楢葉町コミュニティセンターでの「赤とんぼ」「ふるさと」などを情感たっぷりに演奏しました。

思いのこもった響きはとても美しく、豊か。選曲1つからも、千住さんの今回のコンサートに寄せる思いが伝わってきました。

演奏終了後、楢葉中の生徒会長が「音楽を身近に感じ、すごく心にしみた。自分も、人生すべてを掛けられるような何かを見つけたい」と、2人にお礼の言葉を述べました。2人の音楽が、心あたたまる、豊かな時間を届けてくれ、〝音楽の力〟を感じるひとときにもなったのではないでしょうか。

演奏する千住さんと丸山さん（楢葉町コミュニティセンター）

震災関連資料 寄贈協力のお願い

福島大学
うつくしまふくしま未来支援センター

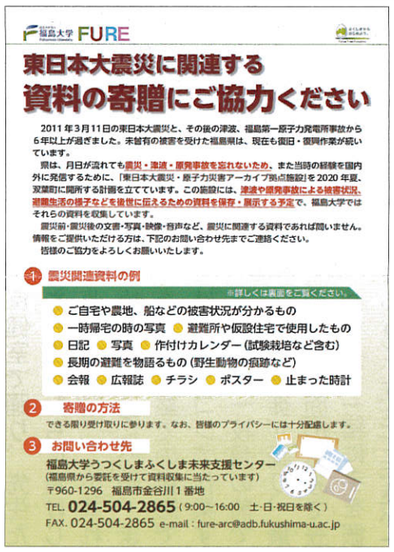
福島大学うつくしまふくしま未来支援センターでは現在、東日本大震災に関連する、資料の寄贈の協力を呼びかけています。

県は2020年の夏、双葉町に震災・津波・原発事故を忘れないため、そして災害の経験を国内外に発信するアーカイブ施設を開所する予定です。福島大学は県の委託を受け、施設へ保存・展示する資料を収集しています。

募集するのは、東日本大震災や原子力災害を直接示すものや、被災直後から復旧・復興の過程の中で使ったものや作られたものです。例えば、午後2時46分に止まった時計や、地震や津波の被害を記録した写真や映像、避難所で炊き出しに使った鍋や、日記、市町村の配布したチラシなどです。

資料の寄贈の際には、できる限り受け取りに参ります。プライバシーには十分配慮致します。また、資料の展示の可否、返却希望などの要望もお申し付け下さい。

問い合わせ先は電話0244（504）2865、ファクス0244（504）2865、電子メールfurearc@adb.fukushima-u.ac.jpです。電話の場合、受付時間は午前9時から午後4時まで、土・日・祝日は除きます。


福島大学 FURE

東日本大震災に関連する
資料の寄贈にご協力ください

2011年3月11日の東日本大震災と、その後の津波、福島第一原子力発電所事故から6年以上が過ぎました。未曾有の被害を受けた福島県は、現在も復旧・復興作業が続いています。

県は、月日が流れても震災・津波・原発事故を忘れないため、また当時の経験を国内外に発信するために、「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設」を2020年夏、双葉町に開所する計画を立てています。この施設には、津波や原発事故による被害状況、避難生活の様子などを後世に伝えるための資料を保存・展示する予定で、福島大学ではそれらの資料を収集しています。

震災前・震災後の文書・写真・映像・音声など、震災に関連する資料であれば問いません。情報をご提供いただける方は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

1 震災関連資料の例
※詳しくは裏面をご覧ください。
- ご自宅や農地、船などの被害状況が分かるもの
- 一時帰宅の時の写真
- 避難所や仮設住宅で使用したもの
- 日記
- 写真
- 作付けカレンダー（試験栽培など含む）
- 長期の避難を物語るもの（野生動物の痕跡など）
- 会報
- 広報誌
- チラシ
- ポスター
- 止まった時計

2 寄贈の方法
できる限り受け取りに参ります。なお、皆様のプライバシーには十分配慮します。

3 お問い合わせ先
福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
（福島県から委託を受けて資料収集に当たっています）
〒960-1296　福島市金谷川1番地
TEL. 024-504-2865（9:00～16:00　土・日・祝日を除く）
FAX. 024-504-2865　e-mail：fure-arc@adb.fukushima-u.ac.jp

広野町 第4回国際フォーラム「被災地からのメッセージ」開催される

第4回国際フォーラム～食べて、歌って、話し合う、ひろのいろいろ会議～「被災地からのメッセージ」が10月12～15の4日間の日程で行われ、参加者が被災地域の抱えるさまざまな問題を共有し、町、地域の将来を考えました。

4日間で12のセッションが行われ、初日の12日には東日本国際大学長で、エジプト考古学の第一人者としてもおなじみの吉村作治さんが「エジプト発掘の魅力」をテーマに、エジプト考古学を志したきっかけや、現在手がけている発掘など、ユーモアを交えながら話しました。

当サテライトでは14日、Jヴィレッジ、広野町、楢葉町とともに「Jヴィレッジ『サッカーとまちづくり』」のセッションを担当し、参加者の皆さんと、双葉地域の中でJヴィレッジが果たす役割と、地域内外の利用促進をテーマに話し合いました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。

セッションのほか、4つのサイドイベントや、呈茶などの交流イベントも行われ、多角的に復興について考える4日間となりました。

4回目の開催となった広野町国際フォーラム

浪江中の生徒たちが
身体表現ワークショップ
に挑戦！！

9月下旬のある１日、二本松市で学習を続けている浪江中に、
コンテンポラリーダンスユニットとして活躍する「んまつーポス」の
メンバー３人が訪問。
生徒８人、先生たちとの“身体表現ワークショップ”が行われました。
身体表現って？？文字通り、自分の体を使った表現のこと。
でも、ただダンスする、というわけではないんです。
笑顔いっぱいだった１日、生徒たちがどんなことをしたのか、
その様子をお伝えします！

「んまつーポス」は、豊福彬文さん、みのわそうへいさん、児玉孝文さんの3人から成るクリエイティブダンスユニットで、宮崎県宮崎市を拠点に活動しています。教員を志して入学した宮崎大学で出会い、ダンスのおもしろさに触れたことから、〝現代芸術的体育〟として、県内外の小学校でのワークショップ、国外での発表などを通し、新たな表現、実践に取り組んでいます。

震災後、いわき市にあるいわき芸術文化交流館「アリオス」の招きで、市内の小学校でワークショップを展開していた3人。3人のダンスに触れ、一緒に体を動かす子どもたちはエネルギーを発散させ、誰もが笑顔で体を使った芸術表現を楽しみ、コミュニケーション能力の向上や、創造力を育むなどの効果が生まれています。

児玉さん、みのわさん、豊福さん（左から）

双葉郡の子どもたちにも、3人に触れ、心と身体を解放してほしい。3人の活動を知っていた私たちは、んまつーポス、宮崎大の高橋るみ子准教授、いわきアリオスに協力を求め、今回のワークショップの実現となりました。

◇　◇

身体表現？ダンス？どんなワークショップだろう。生徒たちの表情からは緊張が感じられました。んまつーポスの自己紹介、早速一緒にダンスをすることで、気持ちもほぐれてきたようで、笑顔が見えてきました。

この日は、アニメのテーマソング「Da！Da!! Da!!」に合わせて、みんなで話し合いながらダンスを作り、それを映像作品として残すことを、3時間弱の中で取り組みました。

生徒たちは最初は恥ずかしがりながらも、次第に笑顔で体いっぱいに表現を楽しんだ

豊福さんがルールとして提案したのが「人の意見を否定しない」。言葉を交わしてそれぞれのアイディアを加えながら、ユーモラスな動きを交え、曲のフレーズごとにダンスを組み立てました。

映像作品にするため、校内全体をステージとして、さまざまな場所でダンスを踊り、それを撮影した児玉さんがその場で編集し、1つの作品に仕上げました。生徒たちは屋上や保健室で踊り、先生たちも生徒たちに負けじと玄関前で一糸乱れぬ？振付を披露。また、校長室での撮影では、パソコンで作業する笠井淳一校長の前で2人の生徒が踊り、最後には満面の笑みで笠井校長も一緒に手を振るなど、先生と生徒が一緒にコミカルな作品を作り上げました。

校長先生をはじめ、先生たちもノリノリ

「言葉の大切さを知った」と感謝の言葉を述べた代表の生徒。話し合い、お互いを尊重しながら1つのものを作り上げていく経験から、コミュニケーションの大切さを学んだのかもしれません。

ワークショップはこの冬にも予定されています。生徒たちの笑顔が広がる日が楽しみです。

福島県出身の発酵学第一人者！
11月20日　小泉武夫先生講演会
聴講申し込み受付中

当サテライトでは11月20日午後1時半から、楢葉町の楢葉町保健福祉会館（楢葉町役場近く）で、小野町出身の発酵学、醸造学の第一人者で東京農大名誉教授、福島大客員教授の小泉武夫先生の講演会を開きます。現在、聴講の申込みを受け付けています。

テレビや新聞などでもおなじみの小泉先生。東日本大震災、原発事故で大きく被害を受けたこの地域の農と食について、明日へとつながるお話しをしていただきます。

聴講は無料です。希望される方は、電話0240(23)6675、ファクス0240(23)6676、電子メールr784@ipc.fukushima-u.ac.jpのいずれかでお申込み下さい。

電話の場合は平日午前9時～午後5時の受付です。ファクス、メールの場合は、お名前、ご住所（市町村名）、人数をご記入下さい。ご参加、お待ちしております！

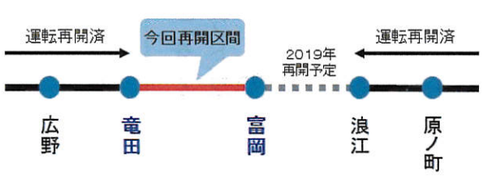
JR常磐線
富岡～竜田間が再開通！！

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で不通となっていた、JR常磐線の竜田―富岡間が10月21日、いよいよ運転を再開しました。

上下合わせ、1日22本が運行しています。6年半ぶりに駆け抜ける電車に、格別な思いを持つ方もいらっしゃるのかもしれません。

再開に合わせ、富岡駅には物販・飲食併設店舗「さくらステーションKINONE」がオープンしました。物販は午前7時から、飲食は午前10時からで、共に午後6時終了です。電車とともに、ぜひ新しくなった駅舎、店舗を利用してはいかがでしょうか。

なお、富岡―浪江間は、2019年度末の再開を目指しています。



相双地区内の再開済みと再開区間、今後の再開予定